

井伊家について

龍潭寺は井伊家の菩提寺です。井伊家は日本の歴史上有力な一族で、浜松を父祖の地としています。井伊家の言い伝えによると、1010 年に龍潭寺門前の井戸のそばで見つかった赤ん坊が成長し、井伊家初代当主・井伊谷城主の井伊共保（1010～1093 年）になったとされています。

その数世紀後の、15 世紀中頃から 17 世紀初めにかけて日本国内で戦乱が続いた時代に井伊家は存続の危機を迎え、領地を奪われる恐れが生じました。この危機の最後の生存者のひとり井伊直虎（1582 年没）は、井伊家を滅亡から救うのに貢献しました。一族の唯一の男子の跡継ぎであり、自らの養子にした井伊直政（1561～1602 年）を徳川家康（1542～1616 年）に仕えさせたのです。家康は 1603 年まで 250 年以上も日本を統治した徳川幕府を開いた初代将軍です。直政は家康の側近として功績を上げた武将（徳川四天王）のひとりとなり、関ヶ原の戦いで家康が勝利を収めたのちは彦根（現在の滋賀県の一部）の領地を賜りました。それ以来、井伊家は彦根に居を構えましたが、変わらず龍潭寺を菩提寺としました。

井伊家は徳川幕府の時代を通じて、日本の政治に大きな影響力をもち続けました。彦根藩の最後から 2 番目の藩主で幕府の高官、井伊直弼（1815～1860 年）は日米修好通商条約の調印に関わったことで有名です。この条約により、日本は約 250 年に及ぶ鎖国を経て開国し、米国との貿易に門戸を開きました。